



NISHIME
Laboratory



Vol.1



松本学
マツモトマナブ

— 発行日 —
2024年5月

— 発行 —
マツモトマナブ
サポーターズ

— お問合せ —
由利本荘市西目町
沼田字新道下 512-8

☎ 090-4848-2290

manabu@matsumotomanabu.com



討議資料

西目地区にお住まいの皆さまへ

西目の市議会議員松本学です。2021年秋の市議会議員選挙にて付託を頂き、新人市議会議員として、市民の代弁者として、これまでの約2年半、議員の使命、役割、仕事とは？市政の過去、現在、目指す未来とは？様々な角度から由利本荘市というまちの今を見渡ししながら、やるべき事は何か、自分ができる事は何か、という事を考え続けてまいりました。

そんな中で、2005年の1市7町の合併で県内一の面積を持つ由利本荘市が、決して避けて通ることの出来ない、それぞれに様々な条件の異なる各地域の人々みんなが幸せに暮らしていくにはどうしたらいいのか？という問題について、西目の市議会議員として、西目地区に特化した研究誌「西目Labo」の発行を始め、願わくば西目地区の皆様から広くご意見をいただき、西目にとっての「より良い暮らし」を研究することにより、「由利本荘市全体の人々の幸せな暮らしとは」というテーマへも近づいてい

けるのではないかと考えております。

由利本荘市、秋田県のみならず、日本という国の未来が非常に危うい、そう言われて久しく、もはやその「危うい未来」の中で我々はすでに暮らしています。ただそれは、(このまま何もしなければ「危うい未来」となる)という意味ではないことも忘れてはならない。まちの未来とは、いつの時代も各自、自らが創り続ける人生の結果の集合体そのものであり、決まりきった未来など存在しないものだからです。

今回は「西目Labo」第一号ということで、まずはこの活動の目的をはっきりと記し、西目地区の皆様のご参加、ご協力をお願いするとともに、「より良い未来」へ一歩でも近づく意味を持つものとなるよう、皆様に読んでいただけるものになるよう工夫を凝らして参りたいと思いますのでよろしく願います。

若松町10区B

由利本荘市議会議員 松本学

松本学（マツモト マナブ）プロフィール

- 1979年 旧由利本荘市生まれ、新山小学校、北中学校、由利工業高校を卒業
- 1998年 上京し音楽の専門学校へ進学、半年で中退し東京、秋田を拠点に音楽活動へ専念
- 2001年 鳥海山と出会い衝撃を受け帰郷、地元愛に目覚める
- 2009年 結婚を機に西目町に住み、その住みやすさにあつという間に西目の虜となる
- 2021年 2006年頃からまちづくり事業を始め、会社経営を経て市議会議員へ立候補



【市議会議員以外の活動】

鳥海山頂美術館、鳥海山木育推進センター、鳥海山遊育プロジェクト、(株)鳥海ドライブ世話人、山岳ガイド、子育て支援団体ニューノーマル、鳥海高原元気創造研究会、イベント司会業、若松町体育部員、由利本荘市山岳救助隊員、鳥海山家守舎

市議会議員とは何者が

私が市議会議員になるきっかけの一つ、「市議会議員が誰なのかも、何をやっているのかもわからない」という市民の声。どうやら市政にとって重要な役割を担っていないような議員という仕事の理解が全く浸透していないのはなぜか？ 私自身政治の世界には全く興味のなかった頃だったにも関わらず「市民の代表としての議員」という立場から見ても矛盾を感じざるを得ない状況を感じました。

そこで本章では議員の仕事が何なのか、についていくつかの段階に分けて紐解いていければと思います。

第1章

「基本のキ」市民と市議会と市長の関係」

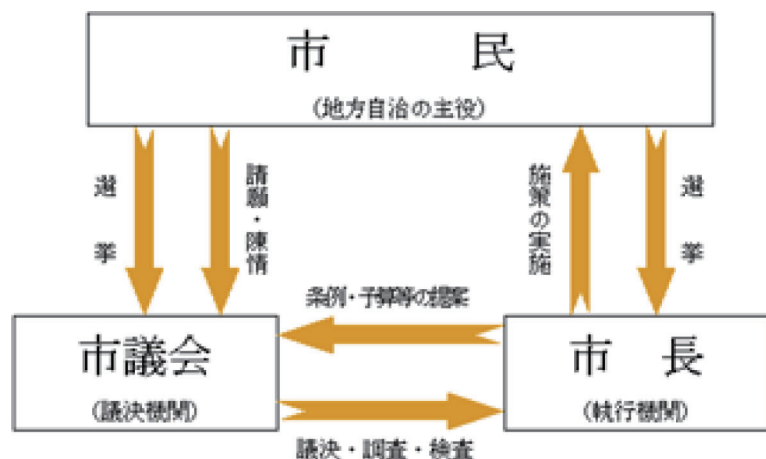
日本国憲法では、地域のことはその地域の地方公共団体（市町村など）が行う「地方自治」が認められています。市長は、市政の方針や重要な事項を議案として市議会に提案、市議会は提案された議案について審議し決定、その決定に従って、市長や教育委員会等は実際に市政を執行する。また、市議会は執行機関が適正に仕事をこなしているかを監視する。

このように、市議会と市長はお互いにけん制し、調和を図りながらより良い由利本荘市の実

現を目指します。

その為に議員は市の現状をよく知り、市長の提案の意図を正確に読み取り、来たる未来との整合性を元に提案の是非を判断することが大切になります。そして市民の代表として、市民の声を市政に届け、「みんなでつくるみんなのまちに」という私自身の政治テーマの実現を目指します。

今回は「市議会議員の仕事」について掘り探りたいと思います。



空いた隙間でショートコラム「松本学は何でできているのか？」

～First Hero～

子供の頃のヒーローは誰かと聞かれると、ウルトラマンでも仮面ライダーでもキン肉マンでもなく、私は同級生の T 君を思い出す。母の職場の都合で幼児期は会社の託児所、保育園の年中までを児童 10 名ほどの小さな保育園で過ごし、その保育園の閉園をきっかけに小学生の前の年長組の 1 年を児童が沢山いる謂わゆるマンモス園で過ごすことになった。急に沢山の子供の中に放り込まれた私は人見知りを発症し、毎日をストレスと共に生きていた記憶がある。保育園に行くのが嫌で、仕事前に自転車に乗せて保育園へ連れて行こうとする母の隙を見ては、近くの森へ猛ダッシュ、母走って捕まえる、というのを毎朝繰り返していた。そんなどうしても馴染めない保育園生活の最中、同じクラスの子ども同士でイジメのような行為があり、私といえばクラスの端っこで「くだらんな～」と眺めていると、隣のクラスの T 君が颯爽と登場し大声で叫んだ、「俺の友達をいじめんな！」。残念ながらその後どうなったかは思い出せない。ただその光景を今でも思い出せるほどに記憶に刻まれている。5歳の私は生まれて初めて、誰かと友達になりたいと強く願い、「友達」とは何かをその瞬間定義できたのだと思う。

講演会リポート

ありがたいことに最近では各方面からの講演依頼が重なり、鳥海山や政治をテーマに私自身の経験に基づく人生観、人生哲学、そこに辿り着く経緯などをお話しさせていただいております。

世界とは常に各個人の人生の投影であり、100人100通りの人生観や世界観、例えば政治観、例えば鳥海山がある。自分にとってのよい未来とは、みんなにとつての理想の世界とは。ふと立ち止まり、一息ついて自らを振り返る時間となれば幸いです。

① 岩手県の「滝沢市山岳協会創立60周年記念式典」へお招きいただき、鳥海山について、というご依頼で約1時間ほどお話しさせていただきました。私が用意したテーマは「鳥海山に生きる」。鳥海山との出会い、自然からの学び、15年に及ぶ山頂小屋管理人の生活、山岳協会の使命、鳥海山のこれから、とても1時間では語りきれず多少時間をオーバーしながらも、岩手山を拠点に活動される皆さんと「山に関わる人生の幸福」を共有できたのではないのでしょうか。滝沢市長ともお話しする機会があり、滝沢市の自然という地域資源の捉え方、活かし方、守り方など勉強させていただきました。



経友会様会合にて



「滝沢市山岳協会創立60周年記念式典」にて

「松本学は呼べば来る」企画

有志の勉強会や町内の会合の空き時間に、仲間内の集まりの余興に。テーマ（由利本荘市の現状、市政、議会、まちづくり、起業、鳥海山、遊び、子育て、教育）とおおよその時間（※注 予定より喋りすぎる傾向あり）、場所、ドレスコード（※注 T シャツ短パンで来る可能性あり）等お伝えください、全て依頼主のご要望、雰囲気づくりにお応えいたします。

講演依頼随時受付中！

当誌は自費発行であり、政務活動費は使用しておりません。自転車にて配達させていただいている関係で西目全域への配布は1ヶ月ほどかかる見込みです。「ご近所さんに配ってあげようか？」という方がいらっしゃいましたら、ぜひご協力をお願いいたします。

配布協力をお願い

② 地元有志の会「経友会」様の会合にて「山と議会と松本学」というテーマで講演させていただきました。地元での開催ということで、何のために議員という仕事を選んだのか、そもそもどんな人間なのか、という所をこれまでの半生と共にお話させていただき、由利本荘市への想い、目指す未来、その道筋や考え方を踏まえお聴きいただきました。自分の頭の中を話す事により現在の考え方が整理され、直接言葉にすることで自分自身の輪郭がはっきりするような感覚は、日々の生活、政治活動にも活かされます。

西目トピックス

令和6年5月10日

春の爽やかな風と日増しに強まる日差しが、間もなくの夏の訪れを予感させるこの時期、西目選出の議員として毎年参加させていたたく行事、「市民参加の森づくり植樹祭」「四角井戸落水式」「山の神大山祇神社の祭典」が同日に執り行われました。私は今年で3回目の参加となり、正直初年度などは訳もわからず呼ばれるままに集合場所へ行き、全く知らなかった西目地区の歴史、文化にただ感嘆するしかなかった。今となつては西目町民の1人としてこちらの行事に参加できる喜びを感じられる大切な1日となりました。

「市民参加の森づくり植樹祭」は昭和33年の旧西目村時代に始まった植樹祭で今回が67回目。西目の大先輩佐々木隆一議員が小学生の時に参加した記憶がある、というのを聞き（隆一さんって昔小学生だったんだ…とか色んな意味で）驚きと感動の中、松食い虫で全滅した先人がかつて植樹した伐採跡地へ、抵抗性（松食い虫等への）クロマツ約250本を町民70名ほどで手分けして植えつけました。

続いて由利本荘市土地改良区「西目発電所管理事務所」主催の四角井戸落水式。

旧西目村が大正時代に築造した長谷地ため池に

鎮座する長谷地神社前で、水の潤沢と豊作を祈願し落水したのが始まりで、大正13年から90年以上も続く伝統的な行事です。このため池から上巾水路を通り水力発電所を経由し沢山の水が西目地区へ供給されています。

現代において我々が当たり前のように水を享受し生活できている背景には、先人たちの血の滲むような努力と想像を絶する苦労があった事を思い起こし、感謝の念と共に拝礼させていただきます。

落水式後、大山祇神社にて山の神の祭典、こちらも100年以上の歴史があり御神体が祀られる祠の前で神事が行われ、現代においても生活する上でなくてはならない素晴らしい自然の力への感謝、先人たちへの敬意に拝礼。



市民参加の森づくり植樹祭



山の神大山祇神社の祭典

この1日が終わると私はまるで心が洗われたような感覚になります。日々の生活がごく当たり前のように流れ、小さなことにストレスを感じ、未来に勝手に不安を抱き、いつの間にかそれを誰かのせいにしてしまいたくなるような現代。しかし、少し立ち止まり歴史を振り返れば、先人たちの様々な苦勞と想いの詰まった無数のドラマの礎の上の整えられた舞台で、我々は悲劇を演じているに過ぎないのです。

「さあ前を見て未来のために生きなさい」そんなメッセージを受け取る事ができる、そんな1日となりました。